



S.Setoguchi

## THE KYOTO HIGH-JUMP

# 第27回 京都ハイジャンプ (J・GII)

1着 本賞 45,000,000円 付加賞 350,000円  
2着 18,000,000円 100,000円  
3着 11,000,000円 50,000円  
4着 6,800,000円  
5着 4,500,000円



レース映像は  
コチラでご覧  
いただけます。

4歳以上、除未出走馬および未勝利馬  
負担重量 4歳59kg・5歳以上60kg、牝馬2kg減、J・G I競走1着馬2kg増、J・G II競走1着馬1kg増

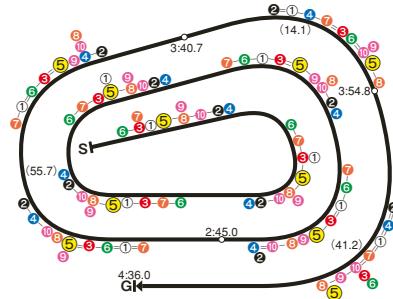
2025.5.17 京都 夕・不良 芝3930m (湿重)

順位	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム	コーナー	平均	馬体重	単勝	オッズ	調教師
					(着差)	通過順位	ハロン (増減)				
1	⑤ アンクルブラック	牡5	60	高田 潤	4:36.0	5-6-2-2	14.0	478(-4)	2.01	高橋 亮(栗東)	
2	⑧ レッドパロッサ	駆6	60	小牧加矢太	7	4-2-1-1	14.1	510(-6)	4.12	佐藤悠太(栗東)	
3	③ メイショウウツイタ	牡7	60	難波剛健	5	7-7-6-4	14.1	514(+12)	12.45	高橋義忠(栗東)	
4	⑥ ブリヨンカズマ	牡6	60	伴 啓太	3 1/2	8-8-5-4	14.2	518(-8)	21.26	高橋文雅(美浦)	
5	⑩ アサクサゲンキ	駆10	60	小坂忠士	2	3-2-3-4	14.2	474(-4)	6.33	四位洋文(栗東)	
6	⑨ ケンアンビシャス	牡7	60	草野太郎	1 1/2	5-5-3-3	14.2	482(+6)	24.86	久保田貴士(美浦)	
7	⑦ クラップサンダー	牡6	60	黒岩 悠	10	10-10-7-7	14.3	476(+12)	63.79	牧田和弥(栗東)	
8	① ラエール	牝6	58	上野 翔	大差	9-9-9-8	14.5	420(-8)	97.90	土田 稔(美浦)	
9	② トーアモルペウス	駆5	60	石神深一	大差	1-1-10-10	14.8	492(+4)	21.50	辻 哲英(美浦)	
10	④ ウイングランブルー	牡5	60	大江原圭	大差	2-2-8-9	15.1	464(-4)	8.94	深山雅史(美浦)	

単勝⑤200円(1馬) 複勝⑤110円(1馬) ⑧140円(2馬) ③230円(5馬) 枠連⑤-⑦380円(1馬)

馬連⑤-⑧380円(1馬) ワイド⑤-⑧200円(1馬) ③-⑥590円(6馬) ③-⑧750円(11馬)

馬単⑤-⑧590円(1馬) 3連複③-⑤-⑧1,860円(6馬) 3連単⑤-⑧-③4,860円(9馬)



上り 1マイル : 1:51.0 上り : 800m 600m  
55.3 - 41.2

## アラカルト

- ・高田潤騎手はニホンビロバロンで制した16年に続く京都ハイジャンプ4勝目。JRA重賞は本年2勝目、通算25勝目
- ・高橋亮調教師は京都ハイジャンプ初勝利。JRA重賞は本年初勝利、通算4勝目
- ・キタサンブラック産駒はJRA重賞通算21勝目
- ・5歳馬の勝利は21年マーニに続く通算5回目

# アンクルブラック Uncle Black

牡 黒鹿毛 2020.4.28生  
北海道日高町 竹島幸治氏生産  
馬主・塚本能文氏 栗東・高橋亮厩舎  
馬名意味：冠名士父名の一部

		ポーサーCAN系 F13-a
キタサンブラック 鹿毛 2012	ブラックタイド 黒鹿毛 2001	サンデーサイレンスUSA
	シュガーハート 鹿毛 2005	ウインドインハーヘアIRE
		サクラバクシンオー
		オトメゴコロ
ウインクルキラリ 栗毛 2010	ダンスインザダーク 鹿毛 1993	サンデーサイレンスUSA
		ダンシングキイUSA
	ウインクルグラス 黒鹿毛 2002	グラスワンダーUSA
		ポーサーCAN

5代までのインブリード:サンデーサイレンスUSA S3×M3 Lyphard S5×S5

## INTERVIEW

竹島幸治氏(生産者)

ドキドキしながらレースを見ました

生産馬が障害競走に出走したことがほとんどないので、手に汗握りドキドキしながらレースを見ました。無事にゴールしてくれてとにかく安心しました。生まれた時から雰囲気のある馬で、父馬に似て脚長ですっとした体形でした。160斤ぐらいの麦程(ばっかん)ロールに前脚をのせて後ろ二本脚で立つことが好きで、頻繁にやっていたことをレース後に思い出しました。

## 父キタサンブラック

北海道日高町 ヤナガワ牧場生産 中央20戦12勝(ジャパンC<sub>Ⅰ</sub>、菊花賞<sub>Ⅰ</sub>、有馬記念<sub>Ⅰ</sub>、天皇賞(春)<sub>Ⅰ</sub>2回、天皇賞(秋)<sub>Ⅰ</sub>、大阪杯<sub>Ⅰ</sub>、京都大賞典<sub>Ⅱ</sub>、スプリングS<sub>Ⅱ</sub>)、年度代表馬2回、最優秀4歳以上牡馬2回。18年から供用  
〔代表産駒〕イクイノックス(ジャパンC<sub>Ⅰ</sub>、有馬記念<sub>Ⅰ</sub>、天皇賞(秋)<sub>Ⅰ</sub>2回、宝塚記念<sub>Ⅰ</sub>、ドバイシーマクラシック、首<sub>Ⅰ</sub>、東京スポーツ杯2歳S<sub>Ⅱ</sub>)、ソーラルオリエンス(皐月賞<sub>Ⅰ</sub>、京成杯<sub>Ⅲ</sub>)、クロワデュノール(ホープフルS<sub>Ⅰ</sub>、東京スポーツ杯2歳S<sub>Ⅱ</sub>)、ウィルソンテソーロ(JBCクラシックJ<sub>Ⅲ</sub>1、白山大賞典J<sub>Ⅲ</sub>3、マーキュリーJC<sub>Ⅲ</sub>3、かきつばた記念J<sub>Ⅲ</sub>)、ガイアフォース(セントライド記念<sub>Ⅱ</sub>)、スキルヴィング(青葉賞<sub>Ⅱ</sub>)、クリスマスパレード(紫苑S<sub>Ⅱ</sub>)、ピコチャンブラック(スプリングS<sub>Ⅱ</sub>)、ラヴエル(アルテミスS<sub>Ⅲ</sub>)、アドマイヤマツリ(福島牝馬S<sub>Ⅲ</sub>)、サトノカルナバリ(函館2歳S<sub>Ⅲ</sub>)、エコロデュエル(中山グランプリJ<sub>Ⅰ</sub>)、アンクルブラック(本馬)

## 母ウインクルキラリ

北海道新ひだか町 安田豊重氏生産 中央31戦2勝。24年用途変更  
アンクルダッシュ(18 牡父ハービンジャーGB)中央6戦0勝、地方48戦3勝  
**アンクルブラック** 本馬(20 牡父キタサンブラック)中央11戦1勝、障害8戦  
4勝(京都ハイジャンプJ-GⅡ) 獲得総賞金103,007,000円  
アンクルクロス(21 牡父タリスマニックGB)中央17戦3勝(あざみ賞)現  
※19、22(前年種付せず)、23(不受胎)

## 祖母ワインクルグラス

北海道門別町 日高大洋牧場生産 中央1勝。22年用途変更

## ウインクルキラリ(10 前出)

ウインクルスーパー(13 牝父アンクルスーパー)中央1勝

## ウインクルチェリー(14)

曾祖母ポーサーCAN

北米3勝(イヤリングセールス)

ウインクルグラス(02 前出)  
タガノシュペリエル(06 騙父ワイルドラッシュUSA)中央2勝(妙高特別)、障

善0勝、地方5勝

四代母ハシノイツブリフセス Pacific Princess  
アメリカ産 北米7勝(デラウェアオーネックス<sup>G1</sup>、ヘムステッド<sup>HG2</sup>、メイトロン<sup>S2</sup>1着、マスケット<sup>HG2</sup>2着、ガゼル<sup>HG2</sup>2着)、ナリタブライアン(日本ダービー<sup>G1</sup>、皐月賞<sup>G1</sup>、菊花賞<sup>G1</sup>、有馬記念<sup>G1</sup>)、ビワハヤヒデ(菊花賞<sup>G1</sup>、天皇賞(春)<sup>G1</sup>、宝塚記念<sup>G1</sup>)、キヌナ(日本ダービー<sup>G1</sup>)の祖母



手は、3、4コーナーの最終障害を飛越後、本格的にスピード。手応え通りの末脚を發揮したアンクルブラックがレッドバロッサを呑み込んで突き放し、ワソサイドの勝利を飾った。

平地時代は未勝利戦の1勝に終わつた本馬は昨春、障害へ転向し3戦目に初勝利。昇級後の2戦はともに3着と足踏みを続けたものの、今年1月、小倉のオープン戦をクビ差で競り勝つて上昇気流に乗った。続くオープン戦は5馬身差、この口は7馬身差で大勝し重賞初制覇を達成。5歳を迎えて本格化、それも一戦ごとに地力を強化していく印象だけに、同じキタサンブラック産駒のエコロディユエルをはじめ、さらなる強敵との対決に期待が膨らむ。

三段跳びが名物の大障害コースを舞台に争われる京都ハイジャンプは春の最高峰、中山グランデジャンプへの参戦を恩送つてこちらに照準を定めてきた面々が中心勢力を形成。なかでもオープン戦を連勝中のアンクルブラックが断然の支持を集め、前走の三木ホースランドパークジャンプSでオープン2勝目を挙げたレッドバロッサ、障害重賞2勝の実績を誇る古豪アサクサゲンキがこれに続く存在と目された。結果はアンクルブラックが7馬身差で圧勝。障害界の新星に名乗りをあげた。

先導役を務めたのは入障2戦目の末勝利戦を逃げ切り、重賞へ駒を進めてきたウイングランブルー。アサクサゲン

ンキが離れた3番手につけ、レッドバロッサはその後に位置を取る。アン・クルブラックの高田潤騎手は5、6番手を追走。1周目のスタンンド前で定まった隊列に大きな変化はないまま、レースは落ち着いた流れで進み、2周目の向正面に待ち構える二段跳びも各馬は無難にクリアした。